

3-3

ご家族とのリスク共有への取り組み

～意向に合わせたアプローチ～

フリカナ
法人名
施設名

シャカイフクシホウジン ヒマワリフクシカイ
社会福祉法人 ひまわり福祉会
特別養護老人ホーム 野庭苑

発表者名 (職種)	澤田 英昭 (生活相談員)	住 所	横浜市港南区日野南 5-56-2
共同発表者	小林 眞由美	T E L	045-892-8881
共同発表者	伊藤 敏	F A X	045-895-0050
共同発表者		E-mail	nobaen-sol@himawarifukushi.or.jp
共同発表者		U R L	http://www.himawarifukushi.or.jp/nobaen/

今回の発表施設 またはサービスの 概要	当施設は、昭和 62 年 5 月に開設。入所介護・短期入所生活介護・デイサービスを併設しております。平成 20 年施設内の改修工事を行い、ひとり浴槽が設置され、個別ケアを重視したサービスの提供をしています。
---------------------------	---

《取り込んだ課題》

介護保険制度施行から、契約を結び、「利用することが当たり前」という時代となりました。時代の流れの中で、過度な期待や権利意識の高まりにより、事故発生時など「本当にきちんと介護してもらっていたのか？」という声やトラブルに発展したことがあります。

そこで、『ご家族とのリスク共有への取り組み』を課題として掲げ、取り組んだことを発表します。

《具体的な取り組み》

- ① 研修の活用
 - ・法人顧問弁護士による集合研修（内部研修）
 - ・リスクマネジメント関連研修（外部研修）
 - ② リスク説明書の整備
 - ③ より理解し易い説明方法の統一
 - ・リスク説明書を使用（書面）
 - ・専門用語についてはより具体的な対応場面や実際の機器等を見ていただきながら説明
 - ・各項目の内容を理解されているかその都度確認
 - ・研修参加スキルを活用しての訓練
 - ④ 担当職員による対応
 - ・窓口の一本化（なじみの職員）
 - ・ご家族との日常コミュニケーション
- <リスク説明を通じた経過と結果事例>
<説明書の内容変更を通じた経過と結果事例>

【事例 1】【事例 2】

《活動の成果と評価》

- ① リスク説明書の整備を通じ、説明内容や方法の標準化ができた。
- ② ご家族構成や状態に合わせた個別のリスク説明書やターミナルケア同意書の作成へ発展させ、よりご家族と施設間の共通認識に繋がった。
- ③ 先手によるご家族とのコミュニケーションを図り、ニーズの把握と情報共有が行え、信頼関係の構築に繋がった。

《今後の課題》

- ① ご家族が状態認識を持続出来るような継続的アプローチ。
- ② 更なる多職種連携と個別の情報共有。
- ③ 日常からより詳細な個別の記録整備。

《参考資料など》

- ・全国老人保健施設協会「入所時リスク説明書（参考例）」
- ・外岡潤「契約時損害賠償条項の説明の仕方（例）」（内部研修資料）

